

第6節 廃棄物

高度成長を遂げた日本では、高度化とともに大量生産・大量消費・大量廃棄が増加し、環境への負荷が大きな問題となって現れてきました。

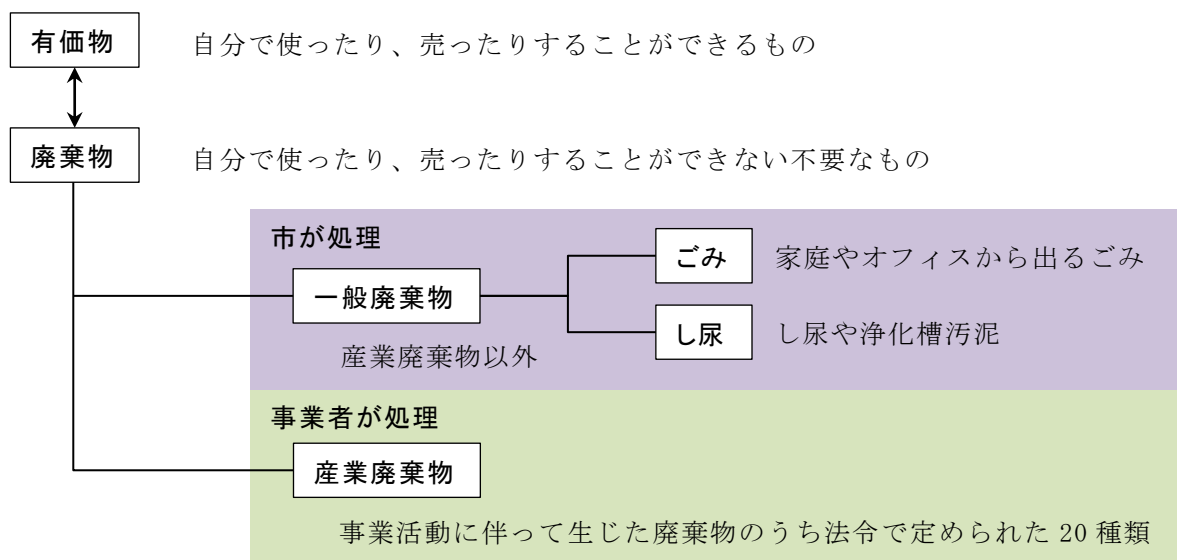
廃棄物の種類は多様化し、量は増大しており、その結果、最終処分場の残余容量が少なくなっています。そのため、廃棄物の発生を抑制し、使用済み製品の再利用、再資源化するなどの対策が急がれています。東広島市では、これまでも廃棄物の発生抑制・リサイクルに積極的に取り組んできましたが、それ以上に国際学術研究都市としての目覚ましい発展によって、人口・事業所数が増加し、廃棄物の排出量も増加しました。

廃棄物を減らすためには、事業者、工場がとるべき対策に加え、市民のごみの分別収集、リサイクルなどのさらなる協力が大切です。

1 廃棄物の概要

廃棄物とは 廃棄物とは、自ら利用できなくなったり、他人に有償で売却できないために不要になったものをいいます。

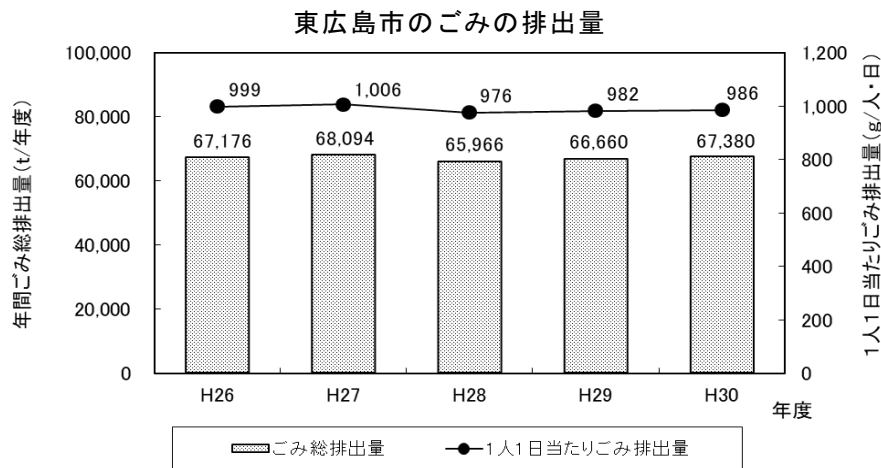
廃棄物は一般廃棄物と産業廃棄物に分類され、その処理は一般廃棄物については市の責任、産業廃棄物については事業者の責任とされています。



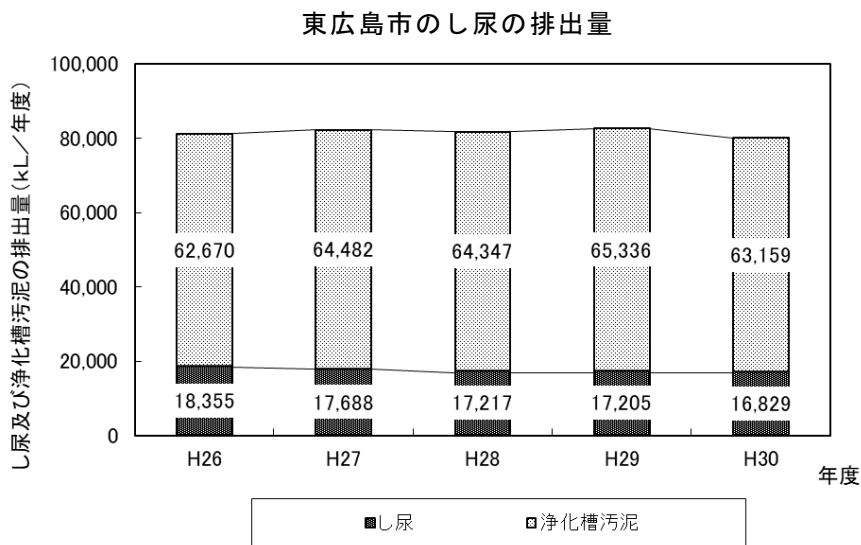
2 廃棄物の現状

ごみ排出量 平成30年度に東広島市から排出された一般廃棄物の総量は67,380tでした。東広島市から排出された一般廃棄物のうち、ごみとして処理されたものは63,808tでした。

これを1人1日あたりに換算すると、986g/人・日となり、平成29年度に比べ微増となっています。



し尿・浄化槽汚泥 平成 30 年度に東広島市で排出された一般廃棄物のうち、し尿及び浄化槽汚泥の排出量は 79,988kL でした。



3 廃棄物の減量対策

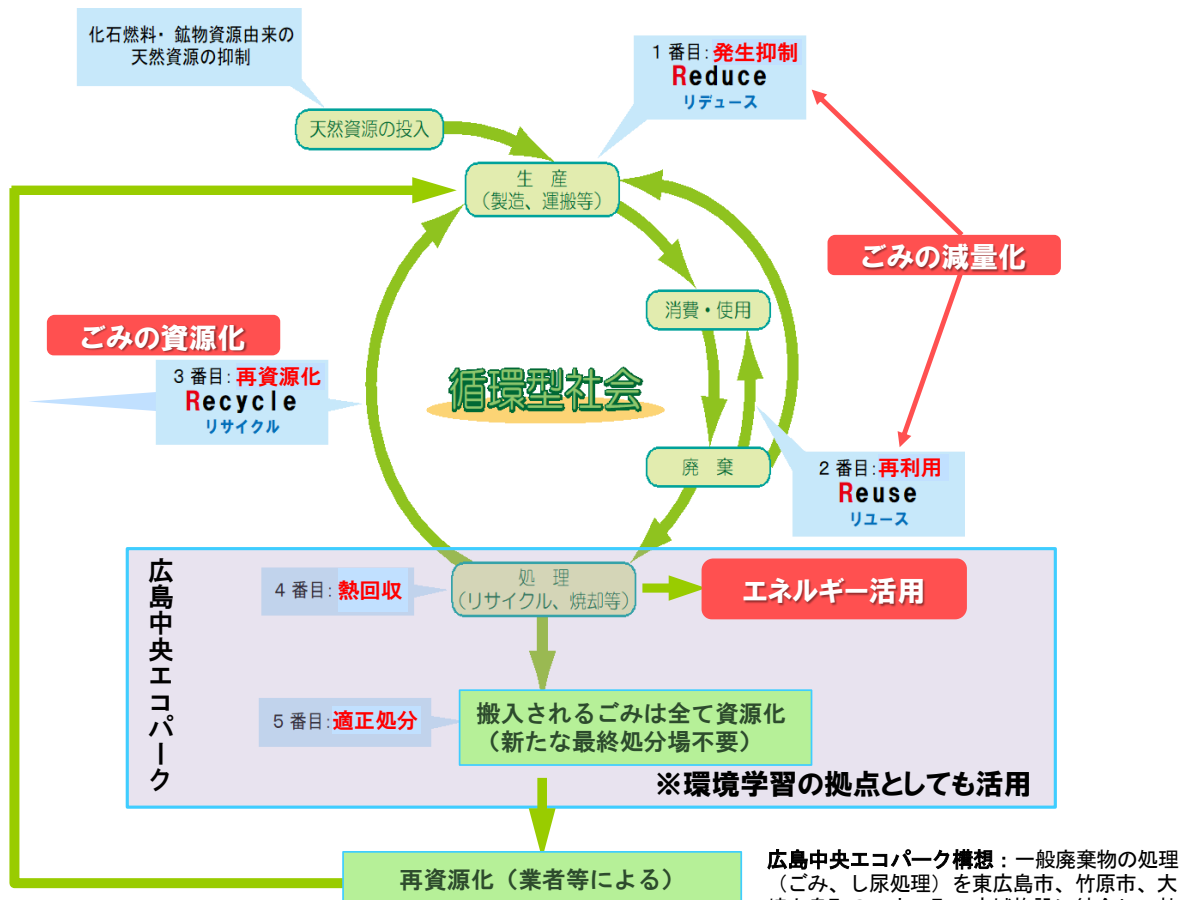
3R の推進 廃棄物を減らすためには 3R を進めていく必要があります。3R とは、廃棄物の発生抑制（リデュース Reduce）、再利用（リユース Reuse）、再資源化（リサイクル Recycle）のことで、まずリデュース、次にリユース、最後にリサイクルを行い、廃棄物を減らすことが大切です。東広島市では、公共施設に古着・古布や使用済み小型家電の回収ボックスを設置したり、市民向けに廃棄物の減量についての出前講座を開催するなどして廃棄物の減量化に取り組んでおり、埋め立て処分のごみがゼロのまち、ゼロエミッションシティを目指してい

ます。

廃棄物減量のために必要な 3R の取り組み

区分	市民の取り組み	事業者の取り組み
発生抑制 (Reduce)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物袋を持参してレジ袋を断る。また、過剰包装を断る。 ・ 生ごみはしっかり水分を絞って捨てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ できる限り商品の包装と梱包を簡素化する。
再利用 (Reuse)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 買ったりもらったりしたが使わないものは、バザー等に出し、必要なものと交換する。又は必要な人に譲る。 ・ リターナブル容器や詰め替え製品を選び、使い捨て商品を選ばない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場での分別と再利用を進める。
再資源化 (Recycle)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資源ごみは、市の分別区分に従って、収集に出すことを徹底する。 ・ 各地域で発生した資源物は、集団回収により資源化する。 ・ 牛乳パック、白色トレイ等はスーパーの店頭回収に協力する。 ・ 調理で出た生ごみを堆肥化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再生品を積極的に採用・使用する。 ・ 廃棄物の適正な処理と資源化を推進する。

ゼロエミッションシティのイメージ図



出典：東広島市環境先進都市ビジョン

広島中央エコパーク構想：一般廃棄物の処理（ごみ、し尿処理）を東広島市、竹原市、大崎上島町の2市1町で広域施設に統合し、効率的に処理する構想。



市民一人一人が協力して、埋め立て処分のごみがゼロのまち、ゼロエミッションシティを目指すんだポン。